

独自路線を歩む中東経済 の先行きを読む

2024年10月8日

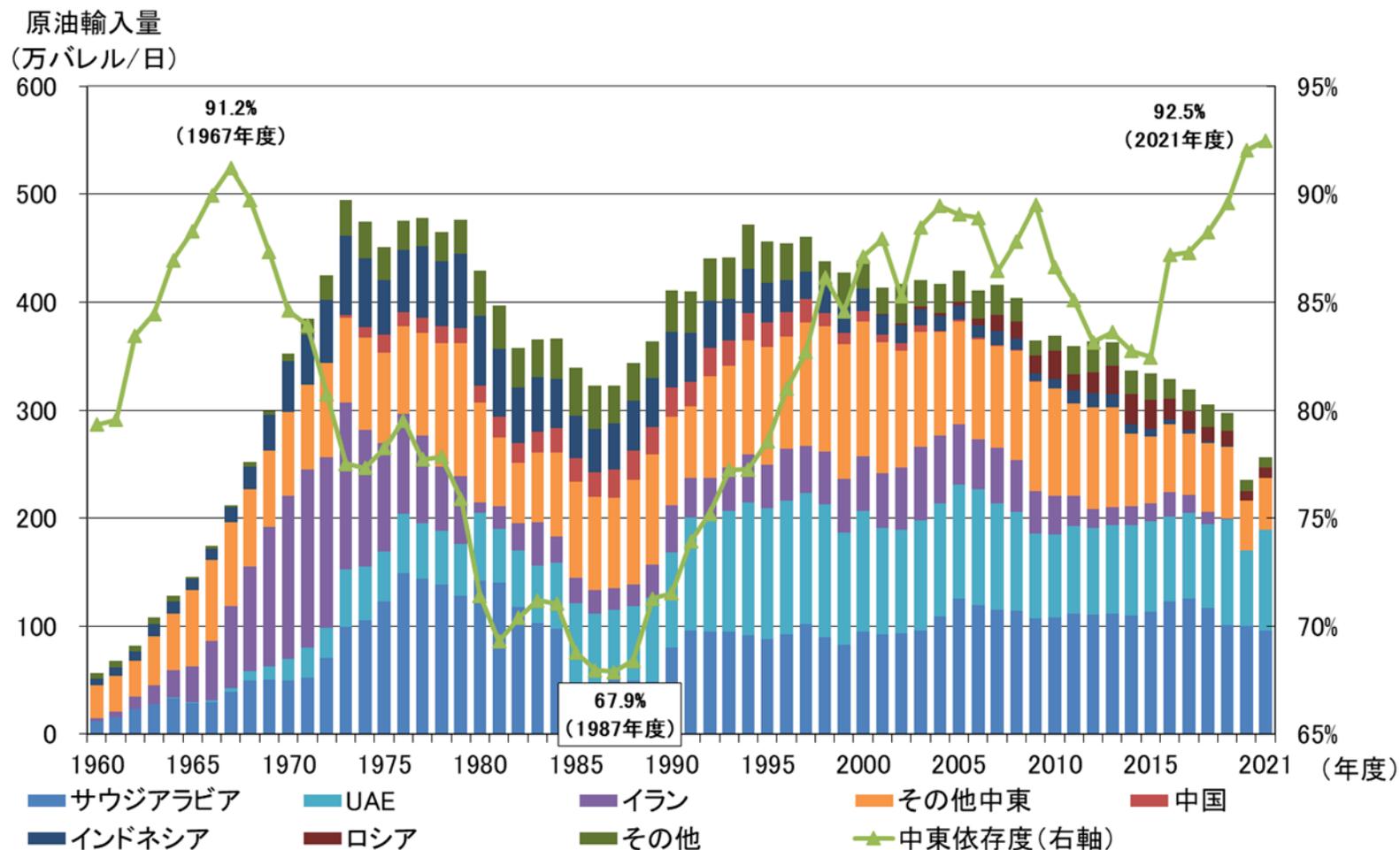
国際通貨研究所 客員研究員

九門康之研究所 所長 九門康之

はじめに ～なぜ日本に「中東情勢」が重要なのか

• エネルギー依存

日本のエネルギー源の約4割が石油。石油の9割以上を中東（主にサウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE））から輸入。中東の地政学動向が日本経済に直接影響する。

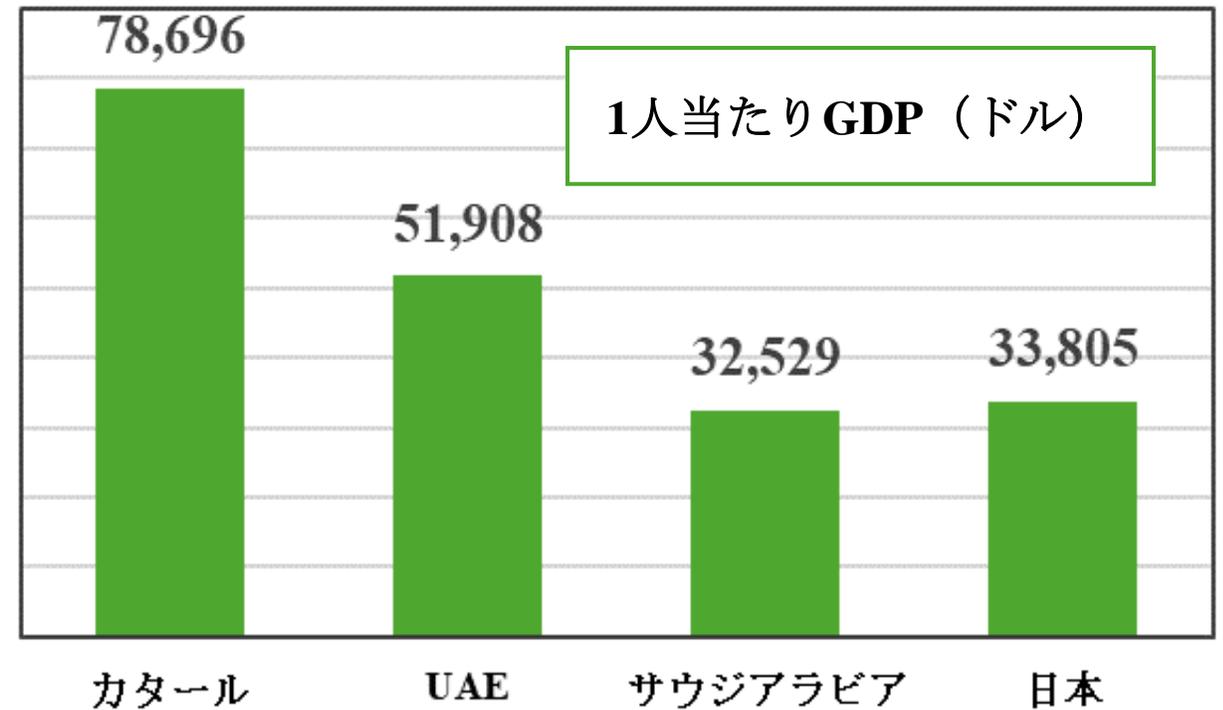


(資料) エネルギー白書2023年

中東はエネルギーだけではない

1. 消費地としての中東

- 1人当たりGDP（2023年）
（右グラフ、IMF）
- 日本から中東北アフリカへの輸出（2022年）268億ドル
全体の比率3.7%



2. 進出先としての中東

- UAE、Doing Business Ranking, 第16位（2020年）
- ドバイは地域物流ハブ、投資先（不動産）として繁栄

人気進出先、ドバイ首長国の指導者



ムハンマド首長 (=国王)
Sheikh Mohammed bin Rashid Al Maktoum (Arabic:
(محمد بن راشد آل مكتوم)
Born 1949



ハムダーン皇太子
Sheikh Hamdan bin Mohammed bin Rashid Al Maktoum
(Arabic: حمدان بن محمد بن راشد آل مكتوم)
Born 1982 Royal Military Academy Sandhurst
London School of Economics

ドバイ首長国はアラブ首長国連邦 (UAE) の7つの首長国の一つ。首長国は実質的に独立した国。ドバイ経済は不動産や貿易を核とし、脱石油を実現している。

中東の独自路線 ～米国の脱中東から地域融和へ

- 2020年8月 アブラハム合意
イスラエルとアラブ首長国連邦（UAE）、バハレーンが国交。モロッコ、スーダンが続く。
- 2021年1月 「カタールボイコット」解除。
サウジアラビア、UAE、バハレーン、エジプトがカタールと和解。
- 2021年8月 米軍、アフガニスタン撤退～米軍の中東でのプレゼンス後退につながる
- 2022年3月、4月 エルドアン大統領、UAE、サウジアラビアを訪問
両国とはムスリム同胞団問題で、サウジアラビアとはカショギ問題で関係が悪かった
- 2022年12月 イラクがサウジアラビアとイランを仲介（「協力とパートナーシップのためのバグダッド会議」）
- 2023年4月 サウジアラビア、イランと国交正常化
- 2023年5月 シリア、アラブ連盟に復帰
- 2024年2月、3月 エルドアン大統領、エジプト、イラクを訪問
- 2024年9月 エジプト、エルシシ大統領がトルコ訪問（返礼）

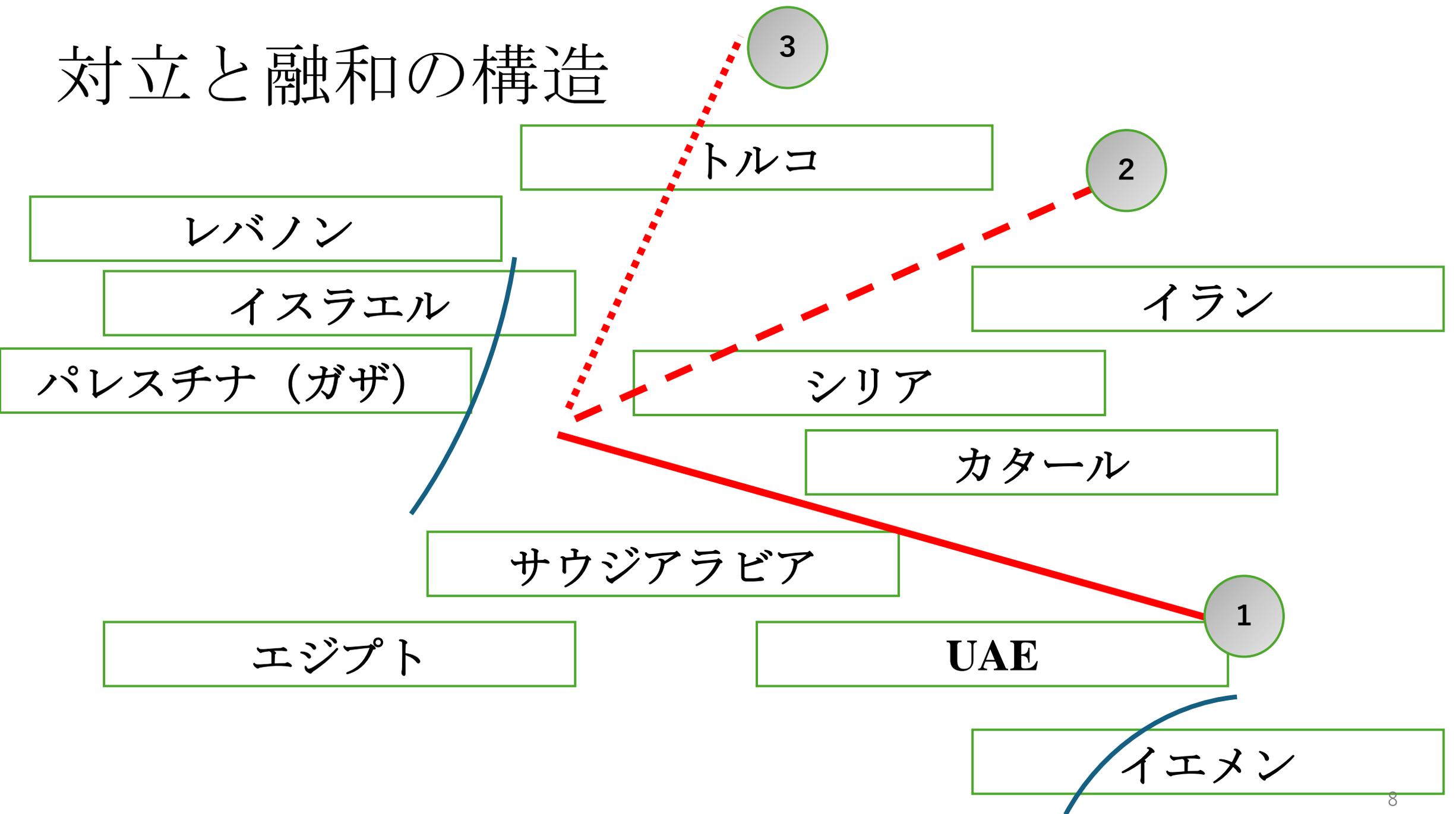
対立していた国と理由

対立主導国	対	被対立国	原因	対立の背景
サウジアラビア UAE エジプト	対	トルコ、カタール	トルコ、カタールが ムスリム同胞団保護	民主主義と 絶対主義
トルコ	対	サウジアラビア	「カショギ氏事件」	人権問題
トルコ	対	イラク	トルコは「イラクがクルド族を支援」と主張	自国の安全
アラブ諸国	対	シリア	紛争の拡大	イランが支援
サウジアラビア	対	イエメン (イラン)	イエメン紛争	イランが支援
サウジアラビア	対	イラク (イラン)	紛争拡大の潜在的脅威	イランが支援

独自路線＝融和を指向する理由

- 米国の中東（除くイスラエル）でのプレゼンス低下で、各国がフリーハンドを得た
- 中東諸国は、自国の経済的利益のため、ほころびていた近隣との経済関係の立て直しが重要と考えた。特に、製造業を有するトルコ、エネルギーはあるが国内が混乱していたイラク。両国の動きに、サウジアラビア、アラブ首長国連邦（UAE）は応じている。
- イランは経済制裁で疲弊した国内経済立て直しのため、近隣諸国との経済関係改善に関心がある。サウジアラビアとの国交正常化はその現れ。イラン・エジプト関係改善に及ぶ可能性あり。

対立と融和の構造



仮説：中東は独自路線を歩んでいる。結果、中東経済は欧米日から離れつつある 検証のポイント

- 産油国のマクロ経済状況

現状、湾岸産油国は大国の支援を必要としていないことを確認

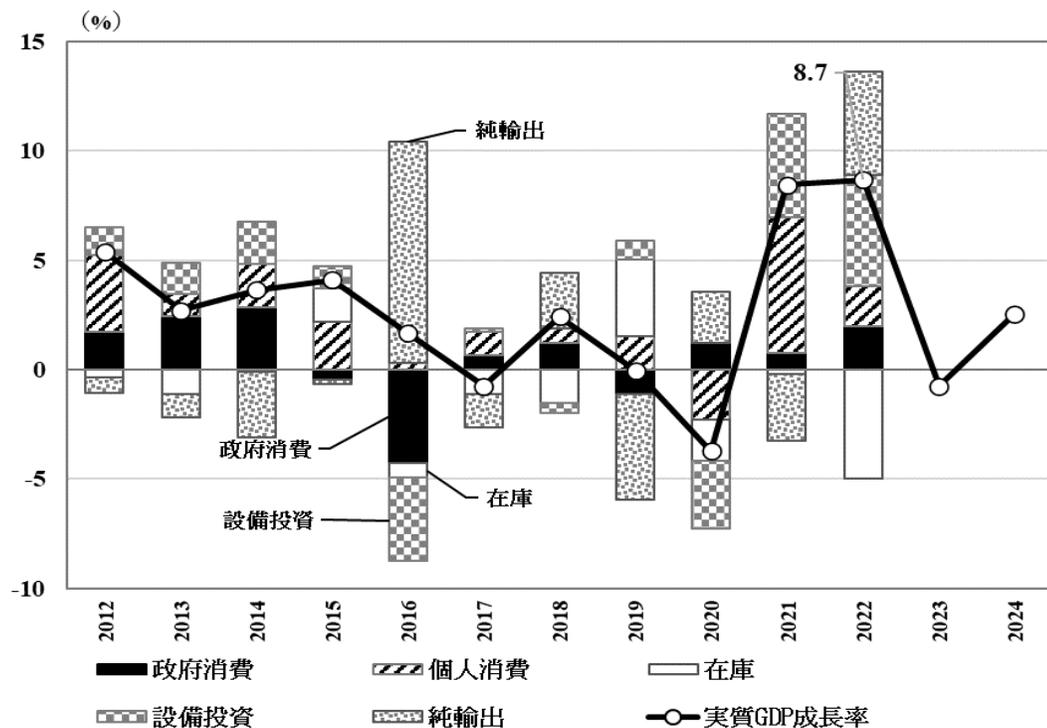
- 中東（GCC＋トルコ・エジプト）の貿易動向

中東諸国が地域指向を強め、欧米日との貿易が減少。他方、地域内での貿易が増加していることを確認。

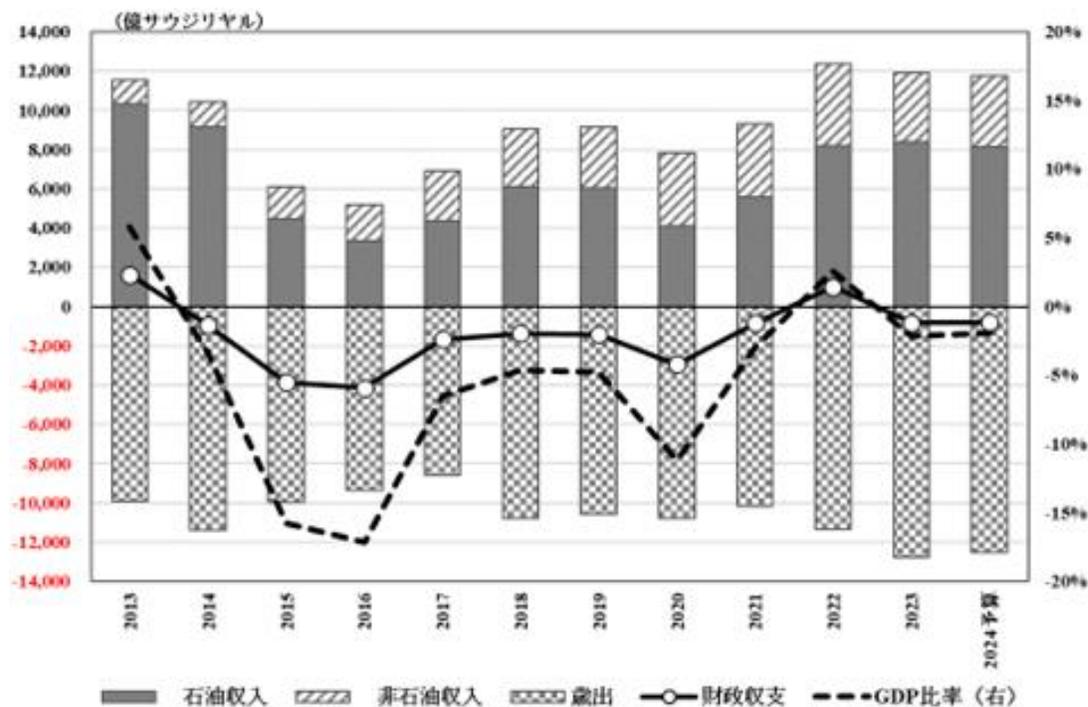
さらに、欧米日の代替として、中国との貿易動向を確認。

マクロ経済現状確認～サウジアラビアの例

実質GDP成長率（前年比）



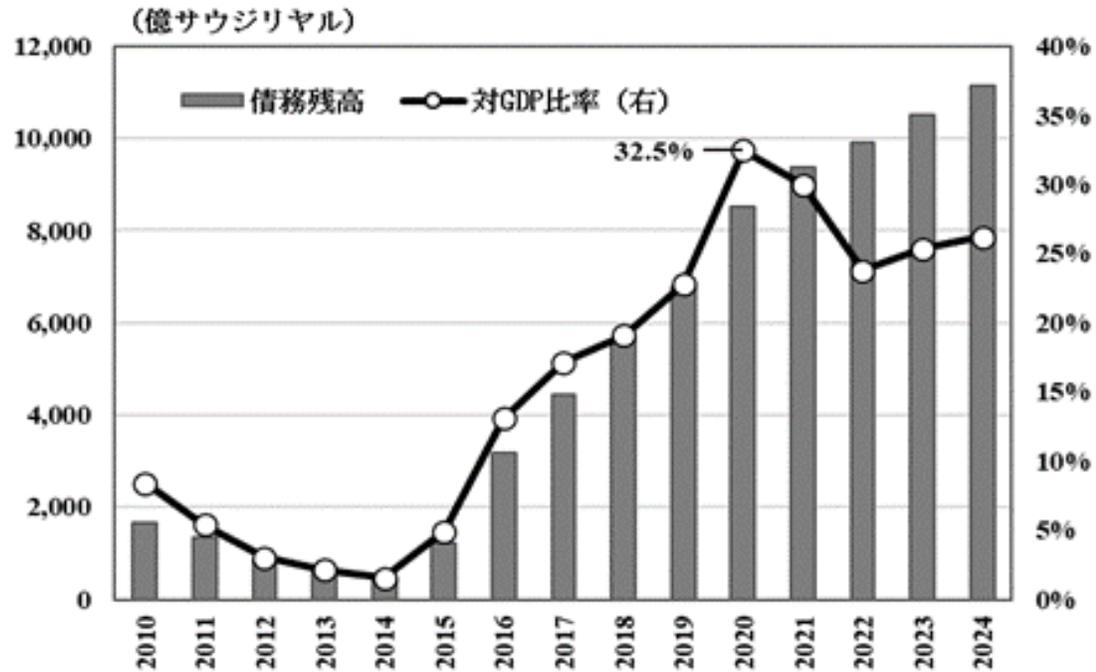
財政収支推移



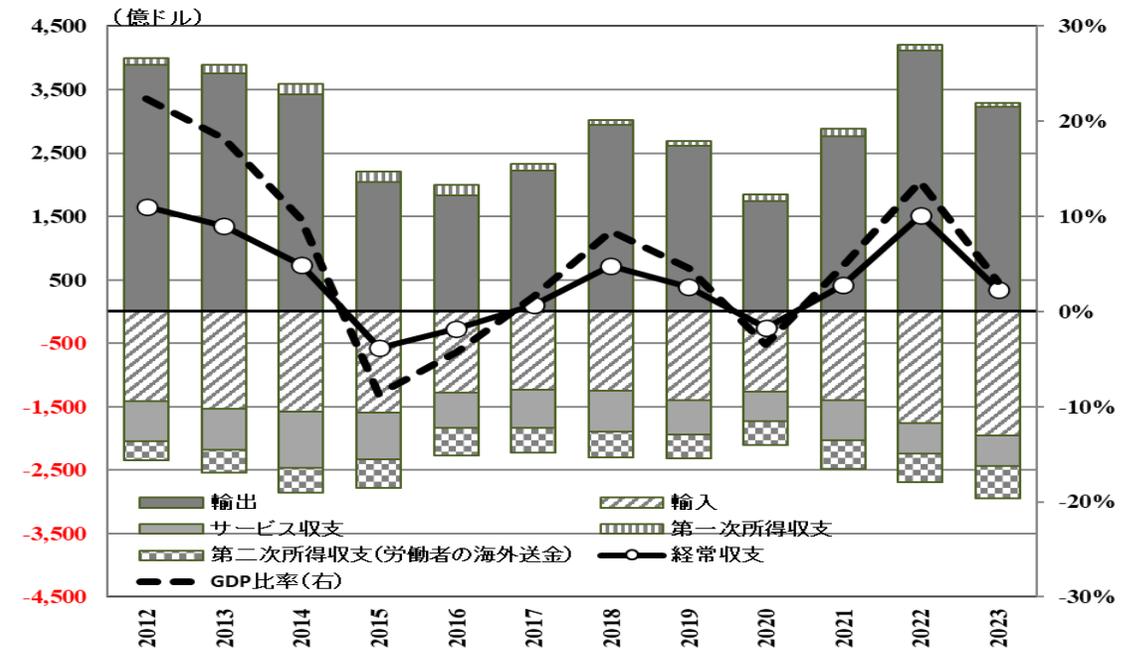
(資料) IMF、サウジアラビアMOFデータより国際通貨研究所作成

マクロ経済現状確認～サウジアラビアの例

公的債務残高推移



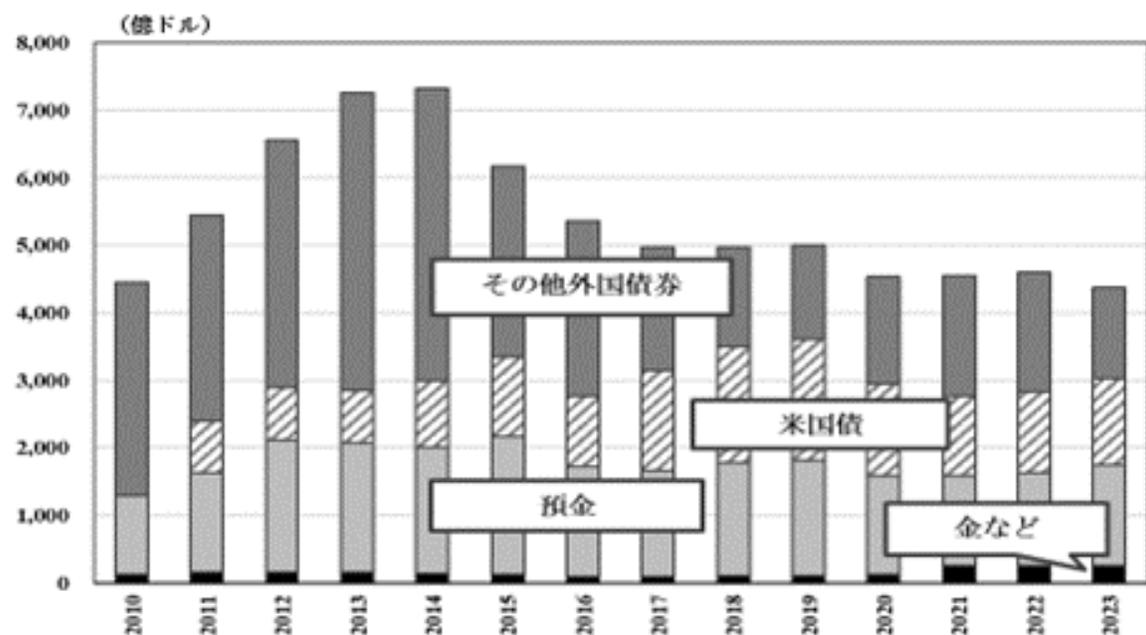
経常収支推移



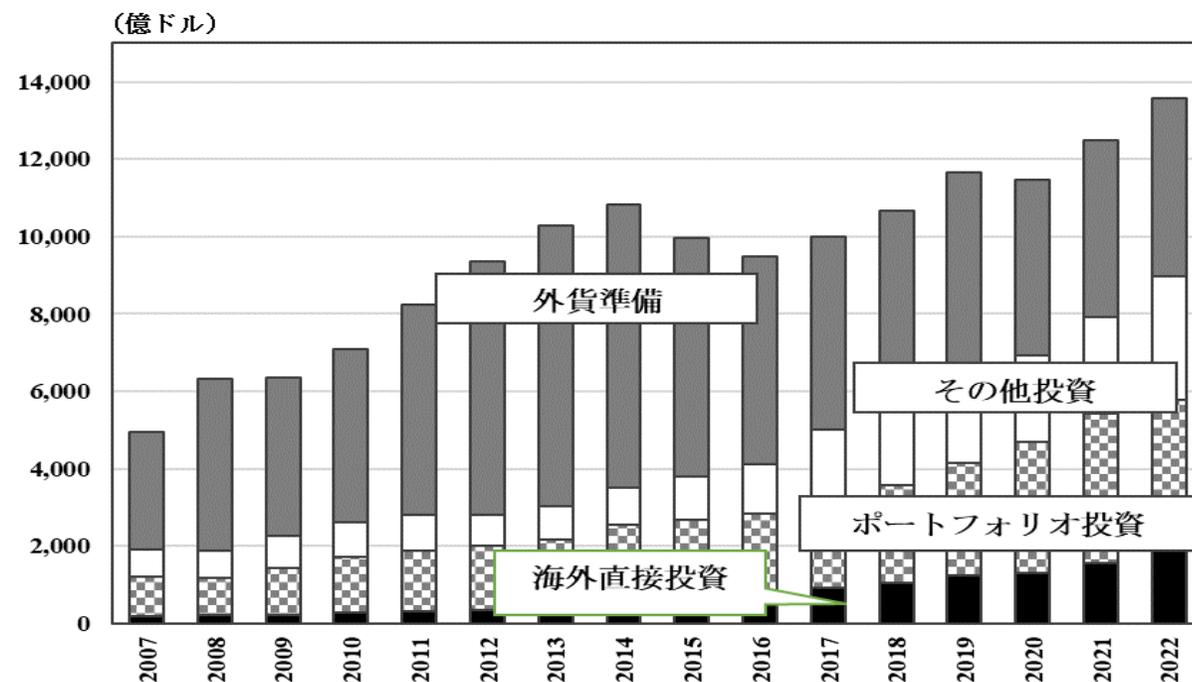
(資料) IMF、サウジアラビアMOFデータより国際通貨研究所作成

マクロ経済現状確認～サウジアラビアの例

外貨準備高推移

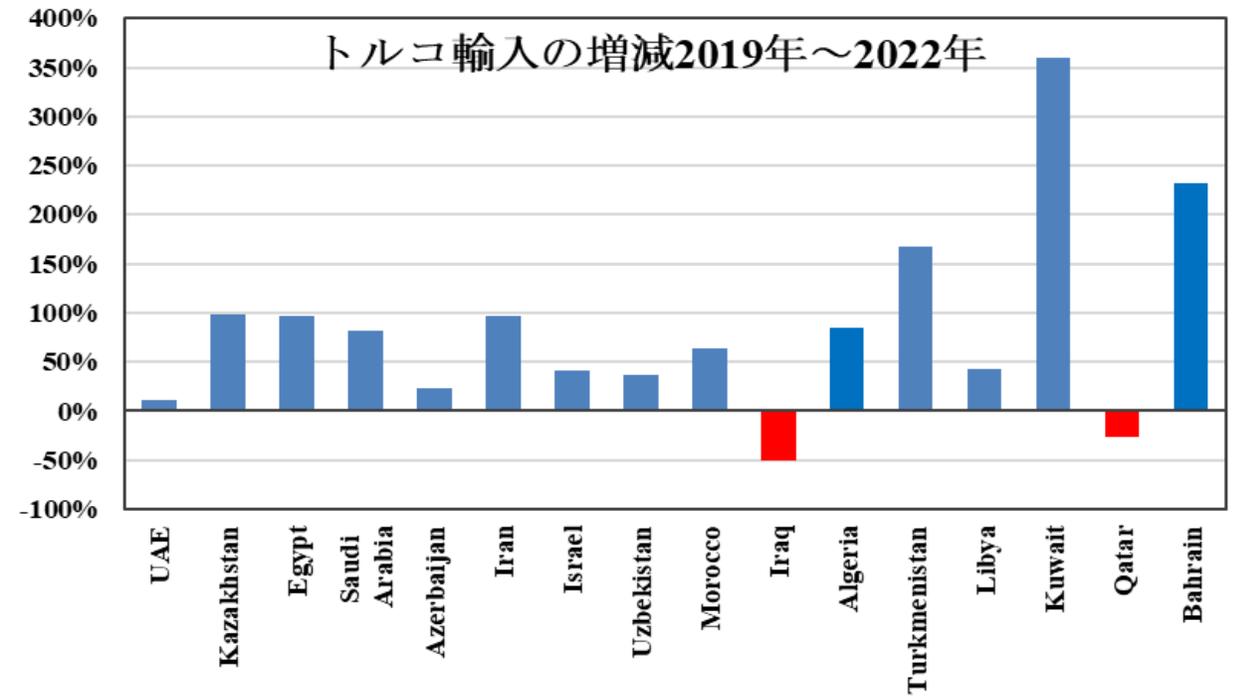
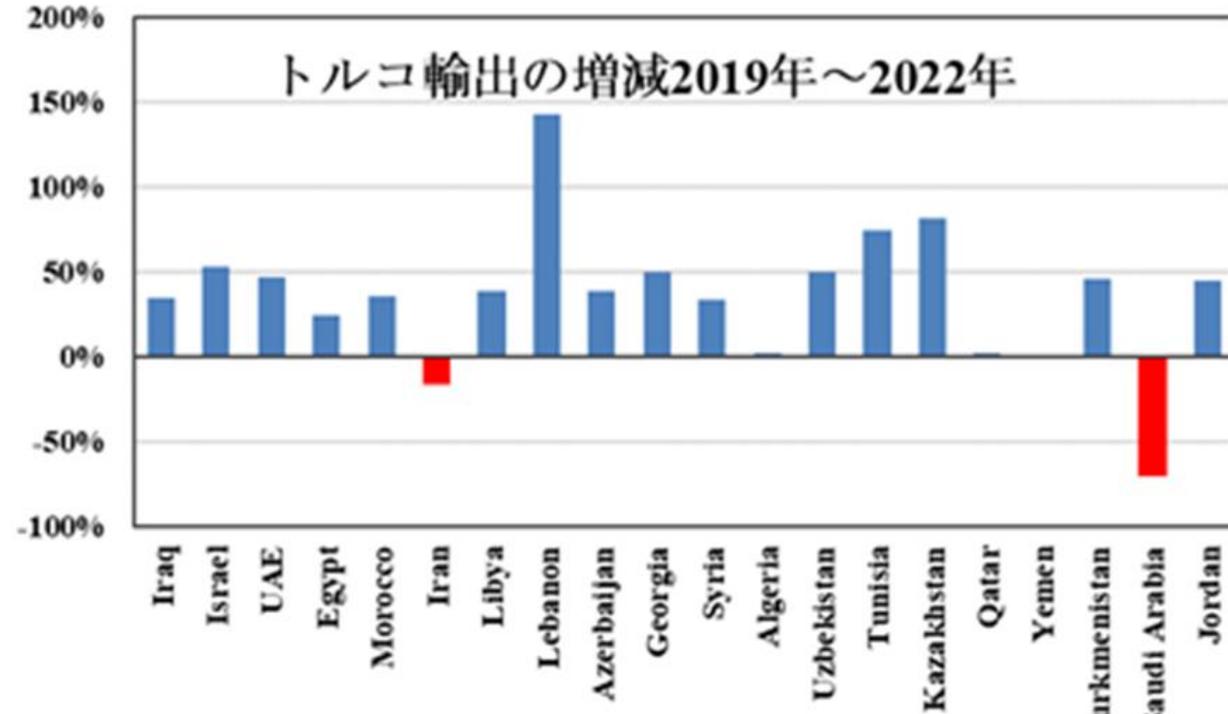


在外資産推移



(資料) サウジアラビア中央銀行データより作成

トルコ、対立でダメージを受けた貿易



- エルドアン大統領のアラブ諸国との融和転換の背景には地域対立でダメージを受けた貿易関係の修復がある。
- 特に、サウジアラビア、イラク。なお、カタールはボイコット時のトルコ支援終了に伴う減少。

中東の貿易大きな流れ（輸出）

輸出国	輸入国	1980年	1990年	2000年	2010年	2023年
GCC+エジプト+トルコ	日本	20.52%	20.21%	16.00%	12.13%	6.46%
GCC+エジプト+トルコ	米国	11.49%	13.26%	7.19%	4.67%	3.47%
GCC+エジプト+トルコ	欧州主要5か国	23.10%	14.14%	8.30%	8.71%	9.63%
GCC+エジプト+トルコ	中国	0.16%	0.56%	9.60%	8.17%	10.91%
GCC+エジプト+トルコ	インド	0.67%	2.48%	6.23%	9.29%	7.51%
GCC+エジプト+トルコ	ロシア/ソ連	0.18%	0.92%	0.26%	0.63%	0.96%
GCC+エジプト+トルコ	GCC+エジプト+トルコ	3.19%	9.22%	9.08%	9.84%	10.48%
GCC+エジプト+トルコ	その他	40.69%	39.21%	43.33%	46.56%	50.58%

欧州主要5か国の詳細

輸出国	輸入国	1980年	1990年	2000年	2010年	2023年
GCC+エジプト+トルコ	英国	3.74%	2.25%	1.57%	1.97%	1.85%
GCC+エジプト+トルコ	フランス	8.11%	3.45%	1.28%	1.49%	1.81%
GCC+エジプト+トルコ	ドイツ	3.35%	3.77%	2.37%	1.79%	2.36%
GCC+エジプト+トルコ	イタリア	5.25%	3.60%	1.82%	1.75%	2.18%
GCC+エジプト+トルコ	スペイン	2.66%	1.07%	1.26%	1.72%	1.43%

(資料) IMF Direction of Trade Statisticsデータより国際通貨研究所作成

中東の貿易大きな流れ（輸入）

輸出国	輸入国	1980年	1990年	2000年	2010年	2023年
日本	GCC+エジプト+トルコ	14.71%	10.15%	6.72%	4.87%	2.57%
米国	GCC+エジプト+トルコ	15.60%	12.19%	10.58%	8.59%	6.38%
欧州主要5か国	GCC+エジプト+トルコ	28.85%	29.50%	28.44%	19.25%	13.28%
中国	GCC+エジプト+トルコ	1.81%	2.67%	4.39%	9.82%	16.46%
インド	GCC+エジプト+トルコ	1.27%	1.38%	2.63%	6.04%	5.37%
ロシア/ソ連	GCC+エジプト+トルコ	0.52%	1.99%	2.99%	4.40%	6.71%
GCC+エジプト+トルコ	GCC+エジプト+トルコ	6.10%	7.59%	6.50%	7.92%	10.40%
その他	GCC+エジプト+トルコ	31.15%	34.54%	37.75%	39.11%	38.82%

欧州主要5か国の詳細

輸出国	輸入国	1980年	1990年	2000年	2010年	2023年
英国	GCC+エジプト+トルコ	7.95%	7.92%	5.66%	2.88%	2.03%
フランス	GCC+エジプト+トルコ	5.33%	4.96%	5.36%	3.39%	2.30%
ドイツ	GCC+エジプト+トルコ	8.27%	9.92%	9.45%	7.37%	4.40%
イタリア	GCC+エジプト+トルコ	5.83%	5.59%	6.00%	4.12%	3.21%
スペイン	GCC+エジプト+トルコ	1.45%	1.10%	1.98%	1.50%	1.35%

(資料) IMF Direction of Trade Statisticsデータより国際通貨研究所作成

検証結果

- 産油国のマクロ経済状況は悪くない

産油国を代表してサウジアラビアで確認。

コロナ禍を経ても経済成長継続。財政収支はやや赤字だがほぼ均衡。公的債務は増加しているが対GDP比率では低下。経常収支悪くない。外貨準備はピークより低下したものの堅調に推移。在外資産は増加傾向。

- 中東（GCC＋トルコ・エジプト）の貿易動向

減少する先進国、伸びる域内と中国

輸出入とも欧米日のシェアが大きく低下した。他方、湾岸産油国と工業化を進めるトルコとの域内貿易が伸び、地域経済圏として成長しつつある。域外では中国がシェアを伸ばしている。

まとめ

- 中東は政治的フリーハンドを得て、経済において独自の行動をしている。
- 中東経済は、現在相対的に安定した時期にあり、欧米への依存度が低下している。
- 貿易は、地域内での取引量が増加している。トルコに続きエジプトの経済発展が実現することで、この傾向はさらに強まるだろう。

ありがとうございました

九門康之
くもんやすゆき

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。